

条約改正 4

以下の文章を読み、文中の空欄のなかに、もっとも適当と思われる語句を、下記の語群から選んで、その符号で答えよ。

安政 5(1858)年 6 月、アメリカを中心とする黒船外交の圧力のもとで、大老井伊直弼が調印した(1)は、いくつかの点で不平等な内容を強制されたものであった。在留外国人への(2)を認めるといふ治外法権があり、(3)も、その税率は協定によるということで、(4)を放棄させられていたのである。

明治新政府は、その改正を外交の基本課題とせざるをえなかった。明治 4(1871)年 11 月、その改正の予備交渉もあって、(5)を全権大使とする使節団を欧米に派遣した。その目的は果たせなかったが、その後まず明治 11(1878)年に(6)外務卿が、アメリカと(7)の改正交渉に成功したものの、イギリス・(8)の反対で成立しなかった。国内では(9)らが国民協会を組織して強硬外交を主張した。明治 23(1890)年には、(10)外相による交渉で、ほぼ改正に同意をとりつけたが、(11)皇太子が日本の警官によって負傷させられるという(12)がおり、同外相が辞任し、交渉は挫折した。しかしその翌年にかけて外相(13)によって、日英通商航海条約が締結されるにいたり、ようやく(14)の廃止に成功した。さらに明治 44(1911)年にいたり、(15)の回復にも成功して、ついに新条約の締結となるのである。

〔語群〕

ア ロシア イ 小村寿太郎 ウ フランス エ 日米和親条約 オ 領事裁判権
カ 大隈重信 キ 貿易自由権 ク 陸奥宗光 ケ アメリカ コ 岩倉具視 サ 通行税
シ 大津事件 ス 関税 セ 日米修好通商条約 ソ 大久保利通 タ 西郷隆盛 チ ドイツ
ツ 寺島宗則 テ 関税自主権 ト 青木周蔵 ナ 日露戦争 ニ 国内自由旅行権
ヌ 西郷従道 ネ イギリス ノ 外交自主権 ハ 井上馨 ヒ 防衛自主権 フ オランダ
ヘ オーストリア

解答

1 セ 2 オ 3 ス 4 テ 5 コ 6 ツ 7 テ 8 チ 9 ヌ 10 ト 11 ア
12 シ 13 ク 14 オ 15 テ